

再 評 価 書

事業名	森林整備事業	事業区分	森林管理道波留相津線	室名	森林保全室
事業概要	工期	平成10年～22年(13年間)	全体事業費	1,366百万円(負担率:国50、県50)	
事業目的及び内容					
<p>(1) 所在地 松阪市飯南町大字向粥見字波留地内の町道を起点とし、上相津地内の県道飯南三瀬谷停車場線を終点とします。</p> <p>(2) 事業の目的 地域の林業基盤施設として、森林資源の有効利用、森林施業の促進による公益的機能の発揮と、併せて、飯南町の波留地区と相津地区を連絡する県道飯南三瀬谷停車場線の迂回路として生活基盤の改善を図ることを目的とします。</p> <p>(3) 全体計画 ① 延長 : 6,000m ② 幅員 : 4m ③ 事業費 : 1,366,110千円(228千円/m) ④ 事業期間: 平成10年度～平成22年度(13年間)</p> <p>(4) 利用区域の森林資源の状況 当該路線の利用区域面積は203ha、そのうち人工林151haで、人工林率は74.4%です。人工林の72%が16～50年生の間伐対象の森林です。</p>					
事業主体の再評価結果					
1 再評価を行った理由					
事業採択後5年を経過した平成15年度に、三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。同条に規定する社会経済状況の急激な変化(全体計画の変更)により再評価を実施する必要が生じたため、再評価を行いました。					
2 事業の進捗状況と今後の見込み					
(1) 課題					
① 地質が予想以上に脆弱で、法面崩壊が発生しやすいこと、及び森林の公益的機能を十分発揮させるため、当初の計画線形を見直す必要があります。					
(2) 変更計画					
① 全体延長 : 5,838m					
② 全幅員 : 4m					
③ 全体事業費 : 1,390,702千円(238千円/m)					
④ 事業予定期間: 平成10年度～平成22年度(13年間)					
(3) 変更計画に対する進捗状況					
	延長	進捗率	事業費	進捗率	開設単価
平成17年度末	2,567m	44.0%	807,400千円	58.1%	315千円
残計画	3,271m	56.0%	583,302千円	41.9%	178千円
(4) 利用区域内の森林整備の状況					
	整備面積	うち間伐			
H10～17	28.7ha	19.7ha			
H18～22	49.9ha	15.9ha			
計	78.6ha	35.6ha			
(5) その他利用区域内の状況					

地元の開設推進委員会において、今後の利用区域内の森林整備を促進するため、林道波留相津線から分岐する作業路網の計画検討が行われています。

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

(1) 関連集落の変化

起点側波留地区の人口は、わずかに減っております。終点側の相津地区では5年前に比べ1割強人口が減少していますが、今後もわずかずつ減少することが予測されます。

(2) 森林・林業、社会経済情勢の変化

- ① 平成13年6月に、これまでの木材生産を主体とした政策から、森林の持つ多様な機能を持続的に発揮させるための政策への転換を図るため、林業基本法が大きく改正され、森林・林業基本法として成立しました。
- ② 平成13年4月に地域の担い手である森林組合みえ中央が松阪市森林組合と合併し、松阪飯南森林組合として組織の基盤強化が図られました。
- ③ 地域の森林施業の中核である松阪飯南森林組合では平成10年から17年の8年間で18名の新規就業者を採用していますが、作業員数は平成10年度の15名に対し平成18年度も15名と変わっておりません。将来的には20名程度確保したいと考えています。
- ④ 櫛田川流域には、地域の森林整備活動の中核を担う認定林業事業者が森林組合以外に8社あります。
- ⑤ 平成10年度に飯南町飯高町の素材生産業者23社が櫛田川素材生産協同組合を設立し、素材生産の効率化を図るため高性能林業機械を導入しました。
現在の組合員は25社で保有機械は14台（フォワーダ2台、グラブ3台、林内作業車7台）です。
- ⑥ 松阪飯南森林組合では平成16年1月にFSCの森林認証、同年9月にCOCの認証を受け、現在は森林の適正管理を続けるとともに、生産されるFSC材の販売経路、COC認定業者への供給から小売店までのライン作りに取り組んでいますが、COCの認知度の低さがネックとなっております。

(3) 財政状況の変化

本県の厳しい財政状況によって林道事業予算が減少しており、進捗が伸び悩んでいます。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向

4-1 費用対効果分析

- ① 事業採択当時は費用対効果分析が導入されていないため分析を行っていません。
- ② 林野公共事業の費用対効果分析は平成12年度から実施しています。

4-2 地元の意向

(1) 受益者

地元5地区の住民で構成する開設推進委員会を毎年1回開催し、林道開設後の森林整備について意見交換等を行うとともに、林道開設に対しても積極的な貢献をしています。

当林道は、地域林業の振興につながるとともに、相津地区からは工事や災害時の県道飯南三瀬谷停車場線の迂回路としての期待もあり、早期完成を強く望んでいます。

(2) 松阪市

林業振興や森林の適正管理を促進するために必要であるとともに、県道飯南三瀬谷停車場線の迂回路としての役割もあることから、事業継続を望んでいます。

<p>5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性</p> <p>① 現場状況に応じ、補強土壁工を積極的に取り入れ、中心線を谷側へ出すことにより、切土法面を短くし、土工量を減らすとともに、切取りと盛土の収支を合わせて排土を無くすようにしている。これにより補強土壁工の経費は増えるものの、法面保護工、土工、排土経費の削減によりトータルで開設単価を下げる事ができるので、平成13年度から積極的に採用しています。</p>
<p>6 環境配慮</p> <p>(1) 間伐材等の利用 切取り法面下部に木柵工や丸太伏工を施工し、路面への土砂崩落防止、視界確保を図り通行の安全を図っています。また、排水施設の洗掘防止に木製ふとんかごを設置しております。</p> <p>(2) 水質の汚濁防止 土捨場の盛土下部に木柵工を設置し、土砂の流出を防止しております。</p> <p>(3) その他</p> <p>① 平成13年度から排出ガス対策型の掘削機械を使用しています。</p> <p>② 法面緑化に使用する種子については、ヨモギ、メドハギなどの在来種や木本類を取り入れ、国産種子を使用するよう努力しております。</p>
<p>7 費用対効果分析</p> <p>B (便益) = 1, 661, 859 千円 C (費用) = 1, 541, 127 千円 B/C = 1.08</p>
<p>8 林道の効果</p> <p>① 国道166号や松阪飯南森林組合の共販所に近いなど森林経営の立地条件は良好であり、当林道の整備によりさらに条件が向上し、経営意欲の向上につながります。</p> <p>② 県道飯南三瀬谷停車場線でしか隣接地区へ行く手段がない相津地区住民にとって、工事や災害時の迂回路として安全安心な生活を支える基盤となります。</p>
<p>事業主体の対応方針</p>
<p>三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指し、事業を継続したい。</p>